東陽三一世 のにあたりとしてお別れの言葉を述べさせていただきます。

私が総代となったのは昭和六二年、二十九世のときでした。　二九世がお亡くなりになり、三十世 が西垣さんの仕事の区切りがつくまでの一〇年間はと、住職に就任しました。

その頃、さんは、三菱商事でコンピュータの導入にわり、商社マンとして油の乗り切った仕事をされていました。

平成一一年に和尚として三一世を継いで初めてんだ大報恩で、住職としての今後一〇年の目標を発表されました。

私達もになってることですが、和尚はきちんと一〇年ごとに目標を立てて、その達成のために逆算して行程表を創り、それに沿って着実に一つひとつ目標を実現したのです。

最初の一〇年の目標は「客殿の建て替え」と「後継者の育成」でした。

平成一四年、責任役員会にて客殿の再構築を決定しました。その中で印象に残っていることは、客殿の建立の資金計画で、檀家の負担に考慮され、一般的な寄付の割当方式を行わず、完成に至るまでの間「客殿建立祈願塔婆」を、毎年、機会ある毎に「先祖供養」と「布施の心」を持って皆様にお願いする、塔婆積み上げ方式を採用したことです。

また専門的知識の不足する部分は檀家さんの中から専門家を選び、客殿建設委員会に責任役員の他に加わってもらい建設業者選び、設計、材木の選択・一年間の乾燥、事前購入など、完成予定日から逆算しての行程表通りの進め方は驚きでもありました。

　平成二一年四月客殿落慶後は引き続き本堂の八〇年ぶりの大改修にも取り掛かり、平成二二年五月完工しました。

これで最初十年の目標をほぼ達成いたしました。

その後の一〇年は、浅草のの整備等、今後の寺の財政基盤を強化することでした。

寺のホームページの制作も和尚が始めた事業で「東陽寺ニュース」「東陽寺を知る」などを見れば東陽寺のことを身近に知ることができます。

これらも一〇年に渡る大事業でしたが、一段落した頃、病魔が忍び寄っていました。

平成三一年にステージ四の大腸癌の手術を受け、その後肺にも転移が見つかりましたが、「何もせず自然に任せて、今の生活を大切にしたい。」との希望で手術も抗癌剤治療もまれました。

住職就任時に立てた「後継者の育成」もご子息たちが平成一三年と一七年に得度されており、令和一年に慶一さんが和尚として三二世を引き継がれました。

もちろん一〇年間隔の事業だけでなく普段のお勤めに精を出されることはもちろん、毎年開催される責任役員会では収支・事業計画の報告がされますが、他に随時事業の懸案事項、進捗状況などはメールにより役員に随時報告され、相談され、役員全員が寺の状況を共有しています。

責任役員会が終わった後では、役員一同、和尚を囲み酒を飲み交わしながら、黒川総代とのゴルフ談義に花咲かせる楽しいもありました。

と奥様の共通の趣味はゴルフで、寺のお努めに故障をさないよう、パブリックコースの早朝ゴルフにお揃いで出掛けプレーを楽しんでいました。

今まで述べてきたこれらの素晴らしい成果は、和尚のまれな実行力に依るところだけでなくの奥様の影の力も大きく有ったことも忘れてはなりません。

住職在職中はもちろん、ここ数年の奥様のご苦労はばかりかと推察いたします。ご苦労様でした。

あとを託された和尚、歴代がいできてくれた東陽寺をまでも引き継いで行くことがの願いであり、檀家一同の願いです。よろしくお願い致します。

『 十 年 の 計 は を 植 え る に あ る 。 百 年 の 計 は 、 徳 を 植 え る に あ る 。』

その言葉どおりの気持ちで東堂は行動してきたと思います。

和尚、あなたは二〇年で木を植え、それを大木に育て上げました。

東堂となったこの先の一〇年にどんな夢を抱かれていたのでしょうか。

所業無常、あなたはに入られました。

あなたは、東陽寺という大木をし、さらなる未来に向かって進んでいくを築いた、令和の中興の祖とも言うべき和尚だと私は思っています。

東陽寺の総代となって三六年、和尚のもとで二五年、その功績の一端にでも関われたことを誇りに思っています。

この送辞を最後に私も総代を辞します。

いつの日かでお会いし、また楽しい酒を酌みわしましょう。

長い間、本当にご苦労様でした。お世話になりました。安らかにお眠りください。